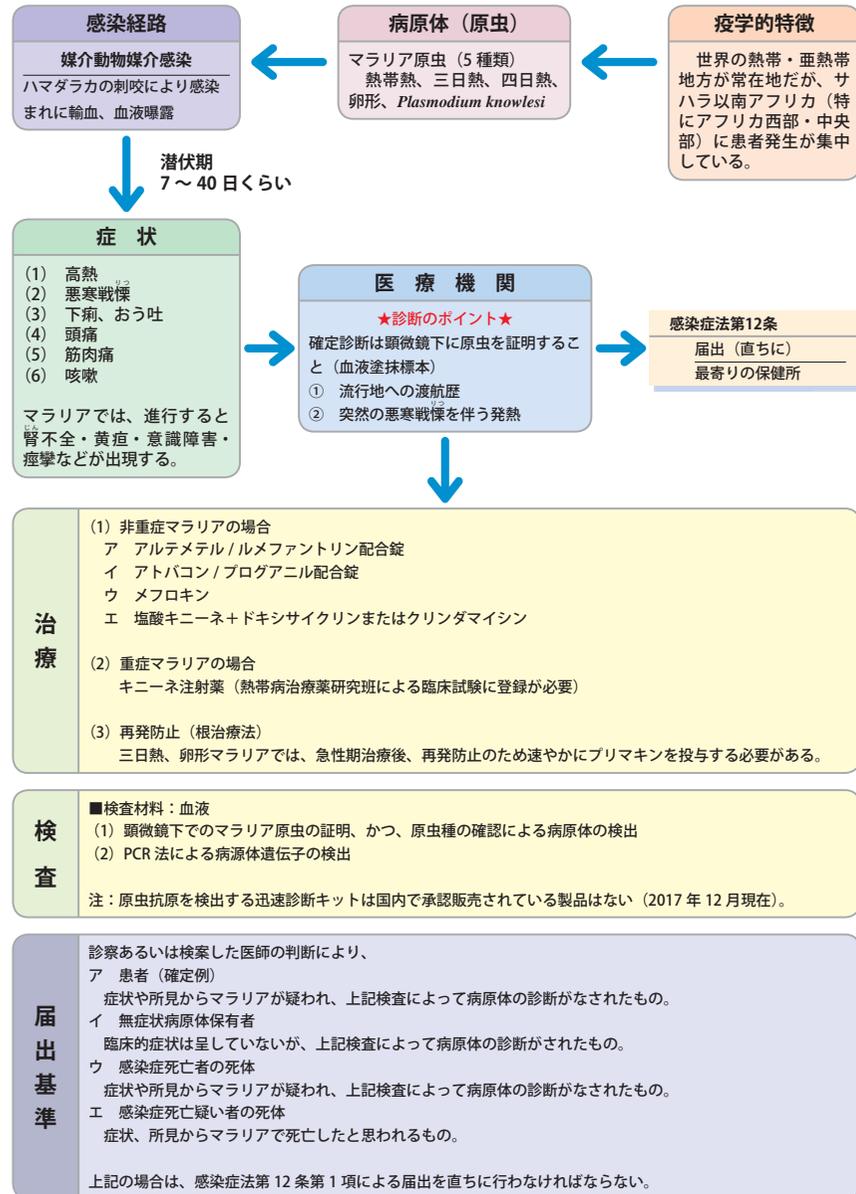


(35) マラリア ……四類感染症

Malaria



参考文献

- (1) 厚生労働科学研究費補助金・医療技術実用化総合研究事業
「わが国における熱帯病・寄生虫症の最適な診断治療体制の構築」
(略称: 熱帯病治療薬研究会)
寄生虫薬物治療の手引き 2014.7

発生状況 世界の熱帯地域に広範に分布するが、サハラ以南アフリカ(特にアフリカ西部・中央部)に患者が集中している。

臨床症状 悪寒、戦慄を伴い高熱を生じるが、マラリアの種類判定に関して、熱型はあまりあてにならない。
熱帯熱マラリアの場合、免疫のない日本人旅行者などでは発症3日目頃から意識障害、黄疸、腎機能障害などの臓器不全兆候を認めるようになる。

検査所見 血液塗抹ギムザ染色標本でマラリア原虫を認める。原虫種の確認にはPCR法が有用である。原虫抗原を検出する迅速診断キットは国内で承認販売されていない。

病原体 マラリア原虫。熱帯熱マラリア原虫(*Plasmodium falciparum*)、三日熱マラリア原虫(*P. vivax*)、四日熱マラリア原虫(*P. malariae*)、卵形マラリア原虫(*P. ovale*)、*P. knowlesi*の5種類がある。

感染経路 マラリア原虫を保有しているハマダラカの吸血時にマラリア原虫(スポロゾイト)が人体に注入され感染する。また、輸血や血液曝露による感染もまれに報告されている。

潜伏期 熱帯熱マラリア: 7～14日あるいはそれ以上、通常1か月以内。三日熱マラリア: 12～17日あるいはそれ以上。四日熱マラリア: 18～40日あるいはそれ以上。卵形マラリア: 16～18日あるいはそれ以上。

行政対応 診断した医師は、直ちに最寄りの保健所に届け出る。

拡大防止 マラリアの予防はハマダラカに刺されないようにする(蚊帳、虫除け剤の使用も有効である)ことであり、流行地に滞在した後に発熱等の症状がでた場合は直ちに受診することが重要である。サハラ以南アフリカに滞在する旅行者では予防内服が推奨される。

治療方針 抗マラリア薬を速やかに投与することが重要である。
① アルテメテル/ルメファントリン配合錠
② アトバコン/プログアニル配合錠
③ メフロキン
④ 塩酸キニーネ+ドキシサイクリンまたはクリンダマイシン
意識障害、腎不全などの臓器不全を伴う重症マラリアではキニーネ注射薬を投与することが望ましい。ただし、熱帯病治療薬研究会による臨床試験に登録する必要がある。
なお、三日熱、および卵形マラリアでは、急性期治療後、再発防止のため、プリマキンを投与する。